

施策マネジメントシート1(平成 31 年度目標達成度評価)

更新日 令和 2 年 6 月 25 日

事業番号 0030000023

総合計画体系	政策No.	03	政策名	産業の発展と交流でにぎわうまちづくり	施策主管課	文化・交流課
	施策No.	06	施策名	芸術文化と歴史伝統のまちづくり		
関係課		文化財課, 社会教育課, (財) 焼津市振興公社, 観光交流課, 水産振興課, 文化・交流課, 教育総務課				

1 基本計画期間(平成 30 年度～ 令和 3 年度)における「施策の方針」  重点施策

- ・良質な芸術文化に触れる機会を提供し、交流の場を増やす。
- ・芸術文化の推進や、文化財の継承・保存に取り組む市民や市民団体の活動を支援するとともに、若年層の参加を促進する。
- ・市が保有・保管する貴重な文化財や美術資料等の保存の在り方を検討する。
- ・文化財の価値を把握するとともに、新たに文化財資源を見だし、それぞれの文化財に適した保護及び交流人口の増加に向けた観光資源としての活用や情報発信を推進する。
- ・学芸員や歴史文化に詳しい人材を発掘・育成する。

2 施策の目的(①対象③意図)と指標(②対象指標④成果指標)等の推移

①対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		市民							
②対象指標 (対象の大きさを表す指標)		単位	数値区分	30 年度 (実績)	31 年度 (実績)	2 年度 (計画)	3 年度 (計画)	4 年度 (計画)	5 年度 (計画)
A	人口	人	見込み値 実績値	137,935.0 137,193.0	137,193.0 136,807.0	136,807.0 0.0	136,807.0	0.0	0.0
				見込み値 実績値					
B			見込み値 実績値						
				見込み値 実績値					
③意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)		芸術文化や歴史伝統の活動をとおして交流を深める							
④成果指標 (意図の達成度を表す指標)		単位	数値区分	30 年度 (実績)	31 年度 (実績)	2 年度 (計画)	3 年度 (計画)	4 年度 (計画)	5 年度 (計画)
A	文化会館の利用者数	人	目標値	361,000.0	365,000.0	369,000.0	372,000.0	0.0	0.0
			実績値	327,557.0	302,257.0	0.0			
			達成率	90.7%	82.8%	0.0%			
B	文化財関連施設の入館者数	人	目標値	28,200.0	28,500.0	28,700.0	29,000.0	0.0	0.0
			実績値	27,577.0	31,408.0	0.0			
			達成率	97.8%	110.2%	0.0%			
C			目標値						
			実績値						
			達成率						
D			目標値						
			実績値						
			達成率						
E			目標値						
			実績値						
			達成率						
F			目標値						
			実績値						
			達成率						

⑤成果指標の測定方法 (実際に成果指標の実績値をどのように把握するのか)	⑥基本計画期間における施策の目標設定とその根拠
1 焼津文化会館と大井川文化会館の利用者数 2 歴史民俗資料館と焼津小泉八雲記念館の入館者数	1 第5次総合計画後期期間である平成26年度から28年度実績平均値(354,556人)の入館者に対し、平成33年度までに5%の利用者数が増加するとして目標値を設定した。 2 第5次総合計画後期期間である平成26年度から28年度実績平均値(27,644人)の入館者に対し、平成33年度までに5%の利用者数が増加するとして目標値を設定した。

⑦施策コスト (トータルコスト=事業費+人件費)		単位	30 年度 (実績)	31 年度 (実績)	2 年度 (計画)	3 年度 (計画)	4 年度 (計画)	5 年度 (計画)	
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	13,662	40,102	17,173	25,750	25,000	25,000
		都道府県支出金	千円	1,896	5,829	1,796	1,796	1,796	1,796
		地方債	千円	0	0	0	0	0	0
		その他	千円	77,491	130,171	66,982	58,012	58,012	58,012
		一般財源	千円	331,027	372,701	367,896	832,900	656,990	641,580
事業費計 (A)		千円	424,076	548,803	453,847	918,458	741,798	726,388	
人件費	正規	職員従事人数	人区	4.2	6.6	4.9	4.7	4.6	4.6
		職員延業務時間数	時間	8,121.8	12,662.0	9,332.0	9,038.0	8,788.0	8,788.0
		職員人件費	千円	29,043	57,422	39,222	36,450	35,442	35,442
		人件費計 (B)	千円	29,043	57,422	39,222	36,450	35,442	35,442
経費		その他	千円	0	0	0	0	0	0
		経費計 (C)	千円	0	0	0	0	0	0
		トータルコスト(A)+(B)+(C)	千円	453,119	606,225	493,069	954,908	777,240	761,830
この施策の事務事業数		本数	28	28	28	28	28	28	

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)

ア) 住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)

【市民】・市民一人ひとりが芸術文化に親しみ、芸術文化活動に参加する。

・伝統文化や文化財の価値を理解し、親しむ機会を持つ。

【団体等】

・芸術文化団体は、市の芸術文化水準を高める。

・歴史的価値の高い文化財や伝統文化に対し、保護や継承に積極的に取り組む。

イ) 行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)

・芸術文化を提供するための施設環境を整備し、良質な催事や文化活動の場を提供する。

・芸術文化の推進や文化財の継承・保存に取り組む市民や市民団体の活動を支援するとともに、若年層の参加を促進する。

・市が保有・保管する貴重な文化財や美術資料等を適切な状態で管理する。

・文化財の価値を把握するとともに、新たに文化財資源を見だし、それぞれの文化財に適した保護と交流人口の増加に向けた活用を推進する。

・市民が伝統文化や文化財に親しみ、大切にすることを育む活動に取り組む。

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化したか。令和2年度を見越して、今後どのように変化するか?

・R元年度に「文化振興計画」の基本方針に基づき、具体的なアクションプログラムを策定し、PDCAサイクルにより進捗管理を進めていく。

・芸術文化については様々な多くの情報を得ることのできる時代となり、良質な優れた芸術や多彩な内容が求められる傾向にある。

・歴史的建造物群保全地区である花沢地域の景観整備が進み、来訪者の増加が予想される。

・R2年2月以降、新型コロナウイルス感染拡大への懸念が続くなかで、継続的な感染予防対応が求められており、施設管理や催事の開催にあたっては国等から随時示される各種ガイドラインを遵守する。

・「新しい生活様式」を意識した事業への転換が必要となる。(オンラインの活用等)

③ この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

・文化財などの歴史的資源を観光に活用すべきとの意見がある。(議会)

・地域にある歴史的建造物を核として活性化を図りたいとの意見がある。(市民)

・文化会館は音響効果など優れた機能を持ち、その高い集客力は素晴らしいと声が寄せられている。(市民)

・新型コロナウイルス感染の影響を受け、停滞した文化・芸術活動を活性化する必要がある。(市民)

4 施策の評価

① 施策の目標達成度(平成31年度の目標と実績との比較)

成果指標名	単位	平成31年度成果指標の達成度			結果
		目標値	実績値	達成率	
A 文化会館の利用者数	人	365,000.0	302,257.0	82.8%	×
B 文化財関連施設の入館者数	人	28,500.0	31,408.0	110.2%	○
C					
D					
E					
F					

\* 平成31年度施策の成果指標の達成状況及び要因

A: 目標値は未達成。利用者数が減少した要因は、焼津文化会館大ホールが8日間、大井川文化会館が22日間、舞台機構等の改修工事により、利用可能日数が少なかったこと。また、R2年2月以降、新型コロナウイルス感染予防による自粛のため、会館利用が激減したことが考えられる。

B: 目標値は達成。歴史民俗資料館、小泉八雲記念館ともに人気テーマの企画展を開催したことが、入館者数を伸ばした要因と考えられる。

※○: 目標達成 △目標をほぼ達成(達成率95%以上) ×: 目標を未達成  
指標名に(ー)があるものは、目標値より実績値が低いものを達成とする

② 施策の振り返り(住民と行政の役割分担を踏まえて、施策の目標達成に向けて、基本計画で掲げた「施策の方針」及び「基本事業の取り組み方針」にどのように取り組んだか。)

・焼津・大井川両文化会館では芸術文化事業を鑑賞型、市民参加型、普及・協働型と位置づけバランス良く実施した。

・市内学生をクラシックコンサート等に無料で招待する学生支援事業や育児中の方を対象に無料で行うミニコンサートを実施した。

・焼津、大井川文化会館の舞台機構の改修などを実施した。

・歴史民俗資料館及び焼津小泉八雲記念館を運営し、伝統文化紹介と学習機会の提供を進めた。

・山の軸の地域資源活用に向け法華寺本堂の修理を実施し、ビジターセンター整備工事に着手したほか、花沢城の案内看板設置等を整備した。

・海の軸の地域資源活用に向け、水産翁生家である浜通りの歴史的建造物の整備を進めたほか、夏のあかり展への支援などに取り組んだ。

・伝統文化の継承と次世代育成に取組む保存会への支援を行い、田遊びや獅子木遣りなど地域に伝わる文化を継承した。

・市民文化祭と市民音楽祭を焼津文化連盟と焼津市音楽連盟に委託し、文化活動の発表の場を設けた。

・「文化振興計画」のアクションプログラムを策定した。

・新元氣世代とこどもを対象とした芸術体験事業を実施し、文化活動の底辺を広げた。

③ 施策の課題(基本計画で掲げた施策の「現状と課題」、「②施策の振り返り」を踏まえて、令和2年度、3年度に向けた施策の課題はなにか)

・市民が手軽に文化芸術を鑑賞・体験できる場の提供が必要となる。

・市内各地域の個性のある文化的資源を、生きがいづくり・健康づくり等に活かしていく必要がある。

・「文化財保存活用地域計画」を策定し、文化財の保存のみならず活用を推進し、まちづくりに活かす必要がある。

・交流人口の拡大に向けて、歴史や文化を通じた交流先の検討を進める必要がある。

・新型コロナウイルス感染予防やリスク評価など対策を行った上で、文化芸術活動を継続する。

・各施設においては、ガイドラインに基づいた貸し出しの指針を作成する必要がある。